

ごみゼロ(廃棄物)

- 会場内に分別用のごみ箱を設置しても、地域により分別の内容が異なる、わかりずらいなどの理由からごみと資源が混ざってしまう・散乱することを回避し、資源として回収する来場者参加型の活動。
- ごみ箱の後ろにボランティアが立ち、ごみを捨ててに来た観客とコミュニケーションをとることで、適切なごみの分別を促す活動。
- 捨てて来た人自身が分別できるように促すことで、来場者自身のマナーアップにもつながる。



写真:NPO iPledge



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport NGO and NPO Network

ごみゼロ(廃棄物)

取組紹介：
東京2020大会「分別ナビゲーター」

無観客開催となったことに伴い、実際の活動は実現しませんでした。東京2020大会では、スタジアムにごみ資源分別ナビゲート活動の導入が予定されていました。



参加・協働、情報発信(エンゲージメント) 主な取り組み

様々な主体との連携

組織委員会は、大会パートナーや自治体等と連携して様々な取り組みを進めています。

- ・大会の装飾をグッズ等に加工して再使用する「アップサイクル」の実施
- ・東京都との連携による、会場内で観客のごみの分別指導を行う「分別ナビゲーター」の配置
- ・神奈川県による、江の島ヨットハーバーの海上ごみを回収する装置「シービン」の設置



◀「持続可能性大会前報告書
持続可能性ハイライト」
(概要レポート): P24より抜粋
https://www.tokyo2020.jp/ima/ge/upload/production/hmdliqg_xhxx5nghtl3ge.pdf



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport NGO and NPO Network

◆ 当日ボランティア(分別ナビゲーター): 約1,000名

→公募は行わず、東京都が連携している大学、iPledge・green birdで活動経験のあるボランティアや協力/協賛企業から募集

◆ ボランティアコーディネーター(コアスタッフ): 160名

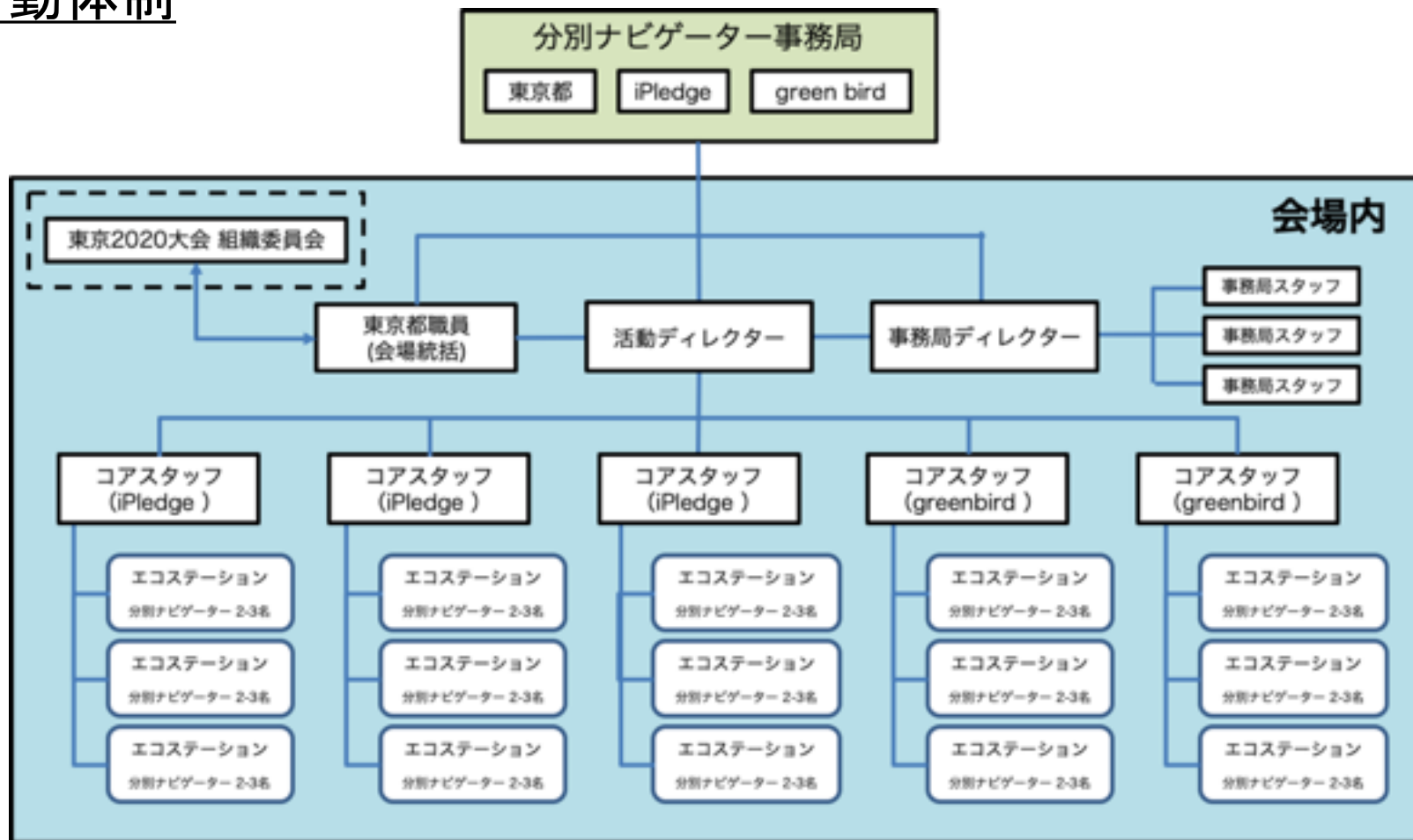
→iPledge、green birdで活動経験のある元コアスタッフ・ボランティアから募集



ごみゼロ(廃棄物)

取組紹介：
東京2020大会「分別ナビゲーター」

◆活動体制



◆ ボランティアコーディネーター(コアスタッフ)の育成

→事前に3回の研修を予定。

① コアスタッフトレーニング(1日)

東京2020大会の基本情報、コアスタッフとしての役割や会場内での動き方、トランシーバーの使い方、ナビゲーターとの接し方など、コーディネーターとして必要な基礎の座学。

② 現場研修(1日～)

実際にイベント会場でコアスタッフまたは分別ナビゲーターとして活動。

③ 直前ミーティング(2～3時間程度)

実際に活動する会場ごとに、当日のシミュレーションやディレクターとの顔合わせ

